

11日 中国最大セール「独身の日」

中国で年間最大のネット通販セール「独身の日」が始まり、11日に最終日を迎える。個人消費が低迷するなか、アリババ集団などのネット通販大手を中心に需要取り込みで動いている。アリババの2020年の取扱高は、過去最高の4982億元(約8兆8千億円)を記録した。ただ、今回は習近平(シー・ジンピン)指導部の方針を受け、例年とは様相が異なる。

独身の日は現地で「双11」と呼ばれている。11月11日はシングルを意味する「1」が4つ並ぶためだ。当初は独身者が「自分への褒美」で買い物をする日との意味合いが強く、日本でも「独身の日」の名称で定着している。

年間最大セールに引き上げたのはアリババだ。張勇(ダニエル・チャン)会長兼最高経営責任者(CEO)が発案し、09年に始まった。中国では10月の国慶節(建国記念日)に伴う大型連休と、クリスマス商戦の12月に挟まれ、11月は消費が動きにくい時期とされてきた。そこで、11月にも消費を盛り上げるイベントとして単独で開催したのがきっかけだ。

ここ数年は競合するネット通販に加え、スーパーや百貨店のほか飲食店などあらゆる業種が相乗りする大規模イベントとなっている。11月11日のみだったセール日も期間が延びている。新型コロナウイルス禍の20年は取扱高がアリババと同国ネット通販2位の京東集団(JDドットコム)の2社だけで7600億元を超えた。

日本や欧米などの海外企業も自国消費の伸び悩みをカバーしよう

ネットの祭典に厳しい目

と、商戦に力を入れる傾向は強まる。アリババ傘下のラザダ(シンガポール)が参加するなど、東南アジアにも商戦は広がる。

ただ、今年とは例年とは違う側面もみえる。特にアリババは「緑色の(エコな)双11」と「公益的(双11)」というキーワードを自社アプリなどで繰り返し訴える。いずれも指導部が唱える方針を前面に打ち出した格好だ。

中国は60年に二酸化炭素(CO₂)排出量実質ゼロを目指している。今年8月には貧富の格差を是正するため所得の分配を呼びかける「共同富裕(共に豊かになる)」の方針も掲げた。今年のアリババのセールでは、こうした方針を強く意識した施策が多い。

例えば、自社モールへの出店企業にはエコ家電など環境に配慮した商品をそろえるよう求める。消費者にも古い家電などのリサイクルを促す。さらに、セールの動向に応じてアリババが寄付するほか、出店企業にも「自発的な」寄付を求めるという。

アリババが政府の方針を強く意識する背景には、ネット統制がある。同社は4月に独占禁止法違反で過去最大の制裁金を科され、他の企業も罰金命令などを受けた。

アリババは長年、出店企業に対し、薬合サイトへ出店しないよう圧力をかけていたと当局に認定された。10月末には当局がアリババなどのネット大手を集め、独身の日に違法行為を行わないように指導しており、当局の監視の目はこれまで以上に強まっている。

これまで勢いがあつた中国の個人消費も、全体では徐々に停滞感が出てきている。それでもネット通販に限れば、9月の売上高は前年同月比で10・1%伸びており、ネットが消費全体を支える構図が鮮明だ。海外への渡航が制限されるなか、富裕層による高額消費もネット通販の販売を押し上げている。

独身の日セールの結果は企業の年間業績を左右するだけに、今回も国内外の企業がしのぎを削る場になる。それだけでなく、中国当局によるネット統制が販売動向などにどのような影響を与えるのかも注目が集まりそうだ。

(上海)松田直樹



20年の独身の日ではアリババの取扱高は過去最大の4982億元となった